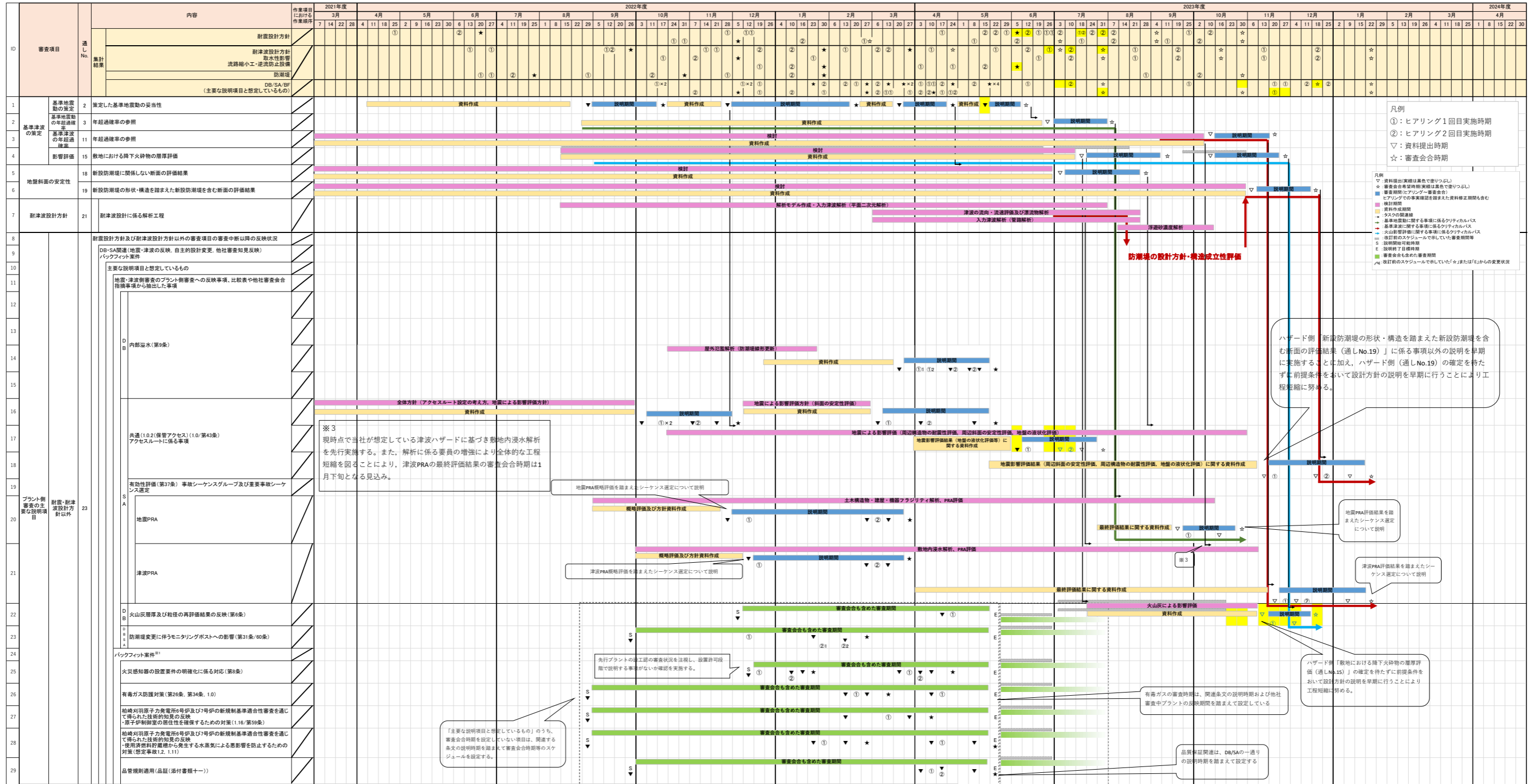


泊3号炉 DB/SA/BFに係る説明スケジュール



凡例  
 ①: ヒアリング1回目実施時期  
 ②: ヒアリング2回目実施時期  
 ▼: 資料提出時期  
 ☆: 審査会合時期

凡例  
 ▼: 資料提出(実績は黒色で塗りつぶし)  
 ☆: 審査会合(実績は黒色で塗りつぶし)  
 ■: 審査期間(アタリ〜審査会合)  
 ■: ヒアリングでの事実確認を踏まえた資料修正期間も含む

■: 検討期間  
 ■: 資料作成期間  
 ■: タスクの開始  
 ■: タスクの閉鎖  
 ■: 基準地震動に関する事項に由来するタスク(カルパス)  
 ■: 基準津波に関する事項に由来するタスク(カルパス)  
 ■: 火山影響評価に関する事項に由来するタスク(カルパス)  
 ■: 設計前のスケジュールで示している審査期間等  
 ■: 説明開始可能時期  
 ■: 説明終了日(標準)  
 ■: 審査会合を含めた審査期間  
 ■: 設計前のスケジュールで示していた「☆」または「E」からの変更状況

ハザード側「新設防波堤の形状・構造を踏まえた新設防波堤を含む断面の評価結果(通しNo.19)」に係る事項以外の説明を早期に実施することに加え、ハザード側(通しNo.19)の確定を待たずに前提条件を置いて設計方針の説明を早期に行うことにより工程短縮に努める。

ハザード側「敷地における降下火砕物の層厚評価(通しNo.15)」の確定を待たずに前提条件を置いて設計方針の説明を早期に行うことにより工程短縮に努める。

品質保証関連は、DB/SAの一連りの説明時期を踏まえて設定する

「主要な説明項目と想定しているもの」のうち、審査会合時期を設定していない項目は、関連する条文の説明時期を踏まえて審査会合時期等のスケジュールを設定する。

先行プラントの竣工認の審査状況を注視し、設置許可段階で説明する事項がないか確認を実施する。

地震PRA概略評価を踏まえたシナシナ選定について説明

津波PRA概略評価を踏まえたシナシナ選定について説明

※3  
 現時点で当社が想定している津波ハザードに基づき敷地内浸水解析を先行実施する。また、解析に係る要員の増強により全体的な工程短縮を図ることにより、津波PRAの最終評価結果の審査会合時期は1月下旬となる見込み。

泊3号炉 DB/SA/BFに係る説明スケジュール

ID	審査項目	内容	作業項目 における 作業順序	2021年度							2022年度							2023年度							2024年度						
				3月							4月							5月							4月						
				7	14	21	28	4	11	18	25	9	16	23	30	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	3	10	17	24
10	通し 集計 結果	耐震設計方針												①	①	①	①														
		耐震設計方針 取水性影響 流路縮小工・逆流防止設備																①②	①	①	①										
		防漏磁																													
		DB/SA/BF (主要な説明項目と想定しているもの)																													
30		条文案での説明を想定しているもの																													
31		グループ1 <sup>※2</sup>	「条文案 中で説明する項目」は、本行審査意見の反映に対する当社の認識に不 十分な点があったことを踏まえ、各条文を対象に審査資料の見直しを進めてい る。引き続き、資料修正、審査会合を適宜実施し、新たな論点が生じた場合 には、「重要な説明項目と想定しているもの」としてスケジュールを設定する。	審査会合も含めた審査期間	S																										
32		グループ2 <sup>※2</sup>			S																										
33		グループ3 <sup>※2</sup>			S																										
34		グループ4 <sup>※2</sup>			S																										

6/26週に、DB条文、SA条文およびバックフィット案件を対象として資料一式提出

指摘事項を回答する期間を想定している。

5/29週に、DB条文、SA条文およびバックフィット案件を対象として資料一式提出

3/27週に、DB条文を対象として資料一式提出

※1  
 ■バックフィットに係る審査スケジュールは、プラント側の関連する審査項目の確認を踏まえたスケジュールとする。  
 ■以下のバックフィット案件のスケジュールについては各条文のスケジュールの中にも含む。  
 ・「地震時の燃料被覆材の放射性物質の閉じ込め機能に係る措置（第4条）」については耐震設計方針  
 ・「溢水による放射性物質を含んだ液体の管理区域外漏えい防止対策（第9条）」については内部溢水（第9条）  
 ■なお、本スケジュールに記載のないバックフィット案件については、設工認等で説明予定。

※2【グループ1】  
 ・不法な侵入（第7条）  
 ・誤操作の防止（第10条）  
 ・安全避難通路（第11条）  
 ・安全施設（第12条）  
 ・全交流電源喪失（第14条）  
 ・[追而あり] RCPB（第17条）  
 ・安全保護回路（第24条）  
 ・保安電源（第33条）

※2【グループ2】  
 ・[追而あり] 外部事象（第6条）竜巻に対する設計方針  
 ・[追而あり] 外部事象（第6条）火山事象に対する設計方針（上記スケジュール記載部分を除く）  
 ・[追而あり] 外部事象（第6条）外部火災に対する設計方針  
 ・[追而あり] 外部事象（第6条）その他自然現象等に対する設計方針  
 ・[追而あり] 内部溢水（第9条）（上記スケジュール記載部分を除く）  
 ・SFP（第16条）  
 ・原子炉制御室（第26条）  
 ・[追而あり] 緊急時対策所（第34条）  
 ・有効性評価（第37条）CV温度圧力  
 ・有効性評価（第37条）炉心 2次冷却系からの除熱機能喪失  
 ・有効性評価（第37条）炉心 全交流動力電源喪失  
 ・有効性評価（第37条）炉心 原子炉補機冷却機能喪失  
 ・有効性評価（第37条）炉心 原子炉格納容器の除熱機能喪失  
 ・有効性評価（第37条）炉心 原子炉停止機能喪失  
 ・有効性評価（第37条）炉心 ECCS注水機能喪失  
 ・有効性評価（第37条）炉心 ECCS再循環機能喪失  
 ・有効性評価（第37条）炉心 格納容器バイパス（インターフェイスシステムLOCA、蒸気発生器伝熱管破損）  
 ・有効性評価（第37条）CV 過圧破損  
 ・有効性評価（第37条）CV 過温破損  
 ・有効性評価（第37条）CV DCH  
 ・有効性評価（第37条）CV FCI  
 ・有効性評価（第37条）CV 水素燃焼  
 ・有効性評価（第37条）CV MCCI  
 ・[追而あり] 有効性評価（第37条）SFP 想定事故1  
 ・[追而あり] 有効性評価（第37条）SFP 想定事故2  
 ・有効性評価（第37条）停止時 崩壊熱除去機能喪失  
 ・有効性評価（第37条）停止時 全交流動力電源喪失  
 ・有効性評価（第37条）停止時 原子炉冷却材の流出  
 ・有効性評価（第37条）停止時 反応度誤投入  
 ・共通（1.0.2（保管アクセス）以外）（第43条）  
 ・ATWS（1.1/第44条）  
 ・高圧時冷却（1.2/第45条）  
 ・減圧（1.3/第46条）  
 ・低圧時冷却（1.4/第47条）  
 ・最終ヒートシンク（1.5/第48条）  
 ・CV冷却（1.6/第49条）  
 ・CV過圧破損防止（1.7/第50条）  
 ・CV下部注水（1.8/第51条）  
 ・CV水素対策（1.9/第52条）  
 ・RB水素対策（1.10/第53条）  
 ・SFP（1.11/第54条）  
 ・放射性物質の拡散抑制（1.12/第55条）  
 ・水源（1.13/第56条）  
 ・電源（1.14/第57条）  
 ・計装（1.15/第58条）  
 ・原子炉制御室（1.16/第59条）  
 ・[追而あり] 緊急時対策所（1.18/第61条）

※2【グループ3】  
 ・内部火災（第8条）  
 ・監視設備（第31条）（上記スケジュール記載部分を除く）  
 ・通信連絡設備（第35条）  
 ・火災（第41条）  
 ・[追而あり] 共通（1.0.2（保管アクセス）以外）（1.0）  
 ・監視測定（1.17/第60条）  
 ・通信連絡（1.19/第62条）  
 ・技術的能力（添付書類五）

※2【グループ4】  
 ・[追而あり] 有効性評価（第37条）事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス選定（上記スケジュール記載部分を除く）  
 ・[追而あり] 大規模損壊（2.1）









